



学校関係者評価報告書  
平成 30 年度

令和元年 6 月

学校法人 日中文化芸術学院

日中文化芸術専門学校

## はじめに

学校が発表した「自己点検・自己評価報告書」をもとに、学校関係者評価委員会が適宜 学校職員と面談し、学生アンケートによる意見分析、関係者からの意見等を総合的判断した本年度の「学校関係者評価」を実施致しました。6項目において、昨年より改善された評価となり、教職員の努力が確実に教育成果につながっていることを確信する事ができました。本報告書が学校改善の一助となり、益々発展される事を委員一同祈念いたします。

学校関係者評価委員会

令和元年 6 月 28 日

日中文化芸術専門学校  
校長 大森 優美 殿

学校関係評価委員会

### 学校関係者評価委員会報告

平成 30 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員会委員

No	委員の名前	所属	種別
1	張 治中	株式会社アレキサンダーアンドサン 副社長	企業委員
2	斉 会発	大阪帰国者会 会長	業界団体委員
3	勝部 宏一郎	豊丸商事株式会社 代表取締役	企業委員
4	葛 健	株式会社日中文化旅行センター 職員	卒業生・企業委員
5	車 慧慧	株式会社日中旅行センター 副課長	企業委員
6	余 維	関西外国語大学 教授	他学校委員
7	馬 磊	株式会社日中文化旅行センター 課長	企業委員
8	承 文	株式会社日中文化経済事業団 取締役	企業委員

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 平成 29 年 12 月 8 日 (会場 日中文化芸術専門学校会議室) 第 2 回委員会 平成 30 年 3 月 16 日 (会場 日中文化芸術専門学校会議室)

第 3 回委員会 平成 30 年 5 月 11 日 (会場 日中文化芸術専門学校会議室) 第 4 回委員会 令和元年 6 月 28 日 (会場 日中文化芸術専門学校会議室)

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以 上

## I 重点目標について

### 1 重点目標①について

文化・翻訳・通訳・観光分野において、国際感覚を身に付け、日中両国で活躍できる人材の育成が日中文化芸術専門学校に与えられた重大な責務である。

### 2 重点目標②について

専門的な知識を学び共に、実践能力を備える、オールラウンドな国際的人材を育成することを目標とする。

### 3 重点目標③について

学生の健康な心身と豊かな人間性・国際的な視野を育成し、即戦力・学力を備えたハイレベルな人材を育成する。

## II 各評価項目について

### 1 教育理念

教育理念：国際的に活躍できる文化・翻訳・通訳・観光分野の人材を育てることが日中文化芸術専門学校の理念である。

教育目標：文化・翻訳・通訳・観光の知識を合わせ持つ総合的人材を育て、本学院生が世界の舞台上で活躍し、社会的貢献をすること。

能力1 健康な心身と豊かな人間性の育成；国際的な視野の育成；即戦力、学力を揃えたハイレベルな人材育成。

能力2 柔軟な問題解決能力と実践力。

能力3 優れたコミュニケーション能力。

能力4 基礎学力の充実と自主的、継続的学習能力。

これらの内容に基づいてシラバス、カリキュラムを作っているので、実現する可能性は高い。

## 2 学校運営

2015年4月に設立されて以来2019年6月に至るまでの四年間は、安定した運営状況だと判断できる。活動・組織・運営、人事・給与に関する制度も完備されつつあり、情報システムも随時更新されるようになっている。昨年度定員超過の件の影響や定員増加・校舎増築により、やや不安定な面があるが、円滑な運営を目指している。

## 3 教育活動

2018年4月に文部科学省に職業実践専門課程に認定され、より実践的な人材を教育することを目指している。企業からも講師を招聘してより実用的な授業を行っている。日中文化芸術専門学校のクラス数が一気に増えたため、ある程度教材を統一した。さらにデジタル化を目指して教材の電子化を試用している。日々、新しい教育内容や方法のより良い改善や改革が必要である。校舎も講師も増え、全体がわかりにくくもなっていることから講師間の情報の共有が今後の課題である。

観光通訳ガイド専攻学科は、三学科の内の一つとして設置されているが、他の二学科と違い、中国人の日本観光ブーム、爆買い現象などを背景にして更に今後の流れに乗っていく為に総合的な応用型人材を育成することが急務である。ガイド業務、日本史、旅行中国語会話、日本地理、日本観光概要、日本旅行業法など特殊な科目が設置されている。ガイド業務授業には実際観光地に行って実践的な授業を行うことで学生が好評だった。

日中通訳学科は学校の三学科の一つとして設置されているが、他の二つの学科と違い、留学生の場合、日本語がN1に準ずるレベル、日本人学生であれば中国語も理解するべく語学的に厳しい要求がなされている学科である。教育目標は、言語を訳せる能力を養成することだけではなく、留学生の場合は、日本で進学することも目標とする者が多い。語学の科目だけではなく、経済学、企業研究、日本社会研究、など人文科学の専門課程も設置し、多分野で翻訳・通訳として活躍できる人材を育成する条件を整えている。

今の段階では、学生は留学生がほとんどとなっており、中国の大学の在学学生、卒業生などが多い。日本での大学院への進学を希望している。授業評価については、かなり評価が高い授業が多いが、教員の研修などの教育活動をさらに体系化する工夫が必要である。

日本語・日本文化学科について、昨年の教訓をもとに日本語・日本文化学科は日本語教育のほかに日本文化研究、日本社会研究などで PDF、パワーポイントなどを積極的に使い、教育のデジタル化を試みた。そのなかでの課題もたくさんあるが、教員一同努力して改善に挑んだ。日本語・日本文化学科について、各講師の教育法や内容をチェックしたところ、学生の日本語レベルの低さから、自分の判断で用意する講師や、非漢字文化圏の学生の教育に不慣れな講師が目立ちはじめ、クラスごとの学習内容にばらつきが出始めた。教員研修会により、意見交換や勉強会により良い形の教育を改善している。

#### 4 学修成果

2015年4月に開校したばかりだが、本格的な進学、就職指導の体制を整いつつである。日中通訳学科では、大学院・大学への進学希望者が多いので、すでに担当者がきめの細かい指導を行っており、2017年4月までの卒業生は名門大学・大学院に進学した。観光通訳ガイド専攻学科は就職をめざす学生を対象として設置されており、卒業生の多くは観光業界などに就職した。日本語・日本文化学科は専門知識を育成中、日本語能力を高めるように力を注いでいる。企業や進学先を招いた学校内の進学説明会・就職説明会・面接会を行っている。資格の取得も日々の授業内容に取り組んだ。全学科には社会が必要な人材の育成に重点において、教育している。

学科名	進学率	就職率	その他率
観光・通訳ガイド専攻学科	11%	70%	19%
日中通訳学科	15%	70%	19%
日本語・日本文化学科	47%	34%	19%

\* 学生志望により

## 5 学生支援

学生支援は進路指導室より進学指導体制の構築、就職活動指導体制作りと進んでいる。学生課より学生寮の整備、アルバイト指導を強化している。留学生に対するビザの更新に関する指導も常に行っている。生活指導も行っている。

## 6 教育環境

施設・設備は効果的に教育目標を達成できるように、事業計画に明確にして、安全、快適な教育環境を提供できるように計画的に整備している。総務課より専門的な管理運営している、特別警備員より近隣環境の維持している。留学生が多いため、防災対策として、防災センターの見学、防犯・防災講習会や非常口の定期点検などを実施している。図書室も蔵書量を増やすことで充実させている。学外実習等の体制も整備されている。学園祭・運動会・音楽祭を実施した。これからも毎年を行う予定である。

## 7 学生の募集と受入れ

校舎増築が間に合わずに、入学者の定員超過があった。大阪府の指導通りに定員内の募集を目指して運営すべきこと。より質の高い学生の募集する必要がある。日本人学生の募集数を募集定員の半数を目指して増加する必要がある。日中文化芸術専門学校の紹介は、ホームページ、パンフレット、チラシ、広告を通じて入学希望を持っている学生に周知徹底している。海外留学生の募集は、海外へ直接行って説明会を実施。国内の募集は、日本語学校や高等学校へ行って説明会を行った、進学フェアの参加することにより市場調査と学校間の信頼関係を強化し、質の高い学生募集を目指して行っている。海外では、現地の大学とも提携し、交換留学など募集・受け入れにつながるシステムを確立している。選考基準を定め、入学試験を実施し、厳正な募集を実施している。約5割の合格率だった。

## 8 財務

新築校舎の建設費用が増加している、定員超過問題に対応するため、財務基盤はやや不安定している。学校法人として、教育活動の充実および永続という目的を達成するため、内外の要因に左右されない財務基盤の充実と強化に重点を置いている。

現在、健全な運営を目指して努めている。

財務基盤を安定させるためには、一定数の入学者を確保し続けるとともに、退学・除籍などのドロップアウト対策を強化して改善を図り、一定水準の学納金収入を確保しなければならない。学校法人として、教育活動の充実と永続的な教育活動という目的を達成するため、内外の要因に左右されない財務基盤の充実と強化に重点を置かなければいけない。

#### 9 法令などの遵守

監督官庁の大阪府私学・大学課・入国管理局が定めた法令等を遵守して学校運営を行っている。自己点検・自己評価を制度化し、毎年、定期的に実行するように定めている。

#### 10 社会貢献・地域貢献

検討中項目である。

#### 11 国際交流

学園祭・音楽祭・海外研修などにより学生が国際交流の場ができた。日本国内から多くの留学生が入学した。海外の多数の大学と姉妹校を締結し、異文化交流の促進を積極的に行い、日本だけでなく、世界へと広く視野を持った人材育成を目的としている。留学生支援室の設立。各在籍国の母国語がわかる職員の増加。留学生のビザ更新指導、留学生寮の設置、留学生奨学金制度及び日本語教育の取り組みなど。進路指導室より留学生ための求人情報提供している。留学生ための活動を充実している。ますますの国際交流、留学生体制を進化している。